

高次脳機能障害 もしものとき リーフレット

本人・家族・支援者の
ための 災害時 対応集



作成：リハビリテーション心理職会
発行：NPO法人 日本脳外傷友の会

災害時に対応される方へ

「高次脳機能障害」という見えない障害があります

- 事故や病気などで脳が損傷され、話す・考える・覚える・集中する・感情のコントロールなどが難しくなり、生活に支障を来す状態をいいます。
- 身体に麻痺がある方もいますが、一見して障害と分からない方もいます。また、本人が障害を認識していない場合もあります。

何度も同じことを聞く！

- 覚えられないため、同じことを何度も聞いてきたりします。
- 自分で言ったことを忘れていることもあります。

- 伝えることを文字にし、いつも見えるようにしてください。
- 絵や図を使って伝えることも取り入れてみてください。

並べない、待てない！

- 周りの状況が理解しにくいいため、順番が守れないことがあります。
- 我慢ができないこともあります。

- 具体的に、順番や並び方を指示してあげてください。
- 場合によっては順番を譲ってあげてください。

判断できない、パニックになる！

- 自分で判断できない人、場違いな行動をする人がいます。
- 困っていないように見える（時にふざける）人がいます。
- 集団や騒音が苦手な人がいます。

- 必要な行動を具体的に指示してください。
- 混乱しているようであれば、付き添ってあげてください。
- 静かな場所で落ち着くまで見守ってください。

高次脳機能障害者が 抱えている問題

本人の自覚障害

本人自身も障害に
気づきにくい

感情の障害

すぐ怒る、落ち込む、
不適切な場面で笑いだす

記憶の障害

言われたこと、昔のことを
覚えていない

行動計画の障害

状況に合わせられない、
計画的に動けない

言語の障害

言われたことが理解できない、
言葉で表現できない

こだわり

他人の意見に耳を貸さない、
自分を通そうとする

注意の障害

集中できない、気づかない、
切り替えられない

脳が疲れやすい

考えられなくなる、
ボーっとする、
イライラする

情報処理の障害

情報が多いと混乱したり、
固まったりする



もしもの時 に備えて

危険(事件-事故-災害)に あったときのために

家族や周囲の人が準備すること

- 地域の人（近所・民生委員など）にも本人の症状・特性を知ってもらう。
- 本人の症状を説明するカードなどを準備する。
- 普段通っている場所（作業所・会社など）と、もしもの時の対応を話し合っておく。
- 家族以外にも、もしもの時の対応を任せられる人を決めておく。

本人と共に準備すること

- もしもの時の行動（約束）を決め、カード あんしんカードに記載し、本人が携行する。
- カード あんしんカード に本人の症状や治療薬を説明し、本人が携行する。
- 本人と、もしもの時の練習をしておく。
- 地元（地域）に居場所を作っておく。
- 家族会や安心できる第三者など、横のつながりを作っておく。

準備ができた項目に☑を入れましょう。